

新基地建設反対名護共同センターニュース

防衛局の埋立設計変更申請に抗議の嵐



新基地建設予算をコロナ救済に回せ 防衛局前で市民100人超が抗議集会

沖縄平和市民連絡会の呼びかけで23日、防衛局前で緊急抗議集会が開かれました(写真下)。参加者はマスクを着用し、間隔をあけるなど細心の注意を払いながら「暴挙! 設計概要変更申請、直ちに撤回せよ!」、「辺野古工事費をコロナ救済に回せ」などと書かれた横断幕を掲げ100人を超える県民が集まりました。集会後、同連絡会の真喜志好一代表世話人が、申請撤回や新基地建設の中断、建設予算をコロナ救済に回すことを求める要請書を職員に渡しました。

沖縄防衛局が21日、辺野古新基地建設の地盤改良工事のための設計変更を県に申請しました。

オール沖縄会議が抗議

この件で「オール沖縄会議」は同日、高里鈴代共同代表らが嘉手納町の防衛局を訪れ、強く抗議し、設計変更申請の取り下げを行うことを要請しました(写真左)。要請文では「技術検討会では非常に不十分な審議を行い、軟弱地盤の再調査も行わずその根拠も示していない」とし、「現在は新型コロナウイルス感染症問題で全国的な非常事態の中、承認申請を提出した姿勢は到底容認できない」と抗議し申請の取り下げを求めました。



日本共産党が防衛局に抗議

日本共産党沖縄県委員会と同県議団は22日、沖縄防衛局を訪れ防衛局が新基地建設の設計変更を県に申請したことに「満身の怒りをもって抗議」し、申請の取り下げと同工事のストップ・全面撤回を要求しました(写真上)。

「コロナ禍のなか人道に外れている」

渡久地修県議団長は「デニー知事先頭に県民のいのちを守るために命がけで取り組んでいるとき設計変更申請を出し、県の仕事と負担を増やすことは県民を愚弄する行為で人の道にも外れている。直ちに撤回を」と強く要求しました。

コロナ感染問題で国が自粛要請の中、
県の負担を増やすことは県民への愚弄だ



デニー知事は反発、メディアや専門家も批判

玉城デニー知事

一方的で断じて容認できない

デニー知事は「県が求める対話に応じることなく、県民に十分な説明もないまま、埋め立て工事を一方的に進めることは納得できない」と批判し、「法令に準じて処分する」と話しました。(22日地元紙)

琉球新報社説

建設断念しコロナ対策を

「沖縄の民意に反する上、実現性すら明確でない工事を強行するのは血税の無駄遣い以外の何物でもない」「県がコロナ対策に忙殺されるさなかに設計変更を申請したのは(略)国民に不要不急の外出自粛を求めている政府の方針にも反する」。(琉球新報23日社説)

沖縄タイムス社説

地盤調査せず申請とは

「埋め立て工事の根幹にかかわる軟弱地盤の不都合なデータを放置したまま、国は新基地建設を強行し続ける姿勢を改めて示した」(軟弱地盤の「深度90m地点をボーリング調査するのが筋だ。その結果を盛り込んでなければ即刻取り下げるべきだ」(沖縄タイムス22日社説))

立石雅昭新潟大学名誉教授

審議不十分 工事が破たん

「軟弱地盤と活断層に関わる調査と安全性の審議がおろそかな現状で、沖縄防衛局が設計変更申請したことは許しがたい」(強行すれば)「工事自体が破たんするだけでなく、貴重な自然生態系を破壊した結果だけが残る」(沖縄タイムス23日)

桜井国俊沖縄大学名誉教授

大浦湾汚濁 計り知れぬ

(NGOが)「辺野古大浦湾一帯を日本初のホープ・スポット(希望の海)に認定した。その大浦湾には軟弱地盤があり防衛局は大規模な地盤改良工事を行おうとしている。大浦湾の汚濁は計り知れない。沖縄県知事は、埋立法に基づき不許可としていただきたい」(沖縄タイムス24日)